

中新田小学校で、災害図上訓練 DIG（風水害対策）を実施

2022年10月21日（金）、中新田小学校の5年生児童69名を対象にした「災害図上訓練 DIG（風水害対策）」を、児童と先生方の協力を得て、海老名災ボラが実施しました。

●10グループに分かれて、グループごとに同小学校区の白地図を囲んで座り、作業を開始



児童は事前に配られた「説明資料」と、海老名市のハザードマップ「相模川洪水浸水想定区域土砂災害警戒区域」を持って体育館に入ってきました。児童は10グループに分かれて、同小学校区の白地図を囲むように座った。災ボラ講師たちは、市内の相模川に近い地域では洪水・浸水の危険があること、2019年10月の台風19号で城山ダム of 緊急放水で約3千人の市民が避難したことを話し、「全員で話し合い・協力してグループ作業を進めよう！」と呼びかけました。

●児童は基本地図と災害地図を作成



中新田小学校区の白地図に、河川・水路、鉄道、公共施設、商業施設、畑などを色分けして記入しました。災害地図は、海老名市ハザードマップ（「相模川洪水浸水想定区域・土砂災害警戒区域」）を見ながら、相模川が洪水となった時の想定「浸水の深さ」を地図の上に斜線で記入しました。中新田小学校区では、「浸水深3.0～5.0m未満の地域」（5mでは戸建て住宅で2階の軒下まで浸水）、「浸水深0.5m～3m未満の地域」（床下浸水）が大部分を占めています。

●災ボラ講師たちは、本日の訓練を家庭で話し合い、風水害対策を進めてほしいと呼びかけ、訓練を終わりました。